

被災地ウォーク復活

阪神大震災の被災地を歩く「ウォーク」が来年1月11日、神戸市長田区で8年ぶりに開かれる。1999年から年1度3回にわたって行われた後、資金不足で中断されていたが、来年、1回目からちょうど10年になることから復活させることになった。実行委員会は「神戸の街が本当に復興できただけどうかを確かめてもらいたい」と参加を呼びかけている。

長田で来月11日

NPO法人「神戸まちづくり研究所」(神戸市中央区)などで行く実行委によると、99年当時、ウォークは、被災地の復興状況を見るときに震災の教訓を風化させないことを目的に、長田区や兵庫区などで行われた。開催費用は企業の協賛金でまかない、1人1000円の参加費はすべて、ボランティアを助成するNPO法人「しみん基金KOBEL」に寄付していた。不況の影響で協賛金が集まらなくなったため、ウォークは2002年以降、中断したが、震災から14年がたち、当時の町並みが大きく変わり、震災の記憶も薄れつつあることから、同研究所のメンバーらがウォーク

復興確認、8年ぶり

ク復活を提案した。

今回は、震災時に大火に包まれたJR鷹取駅南側の大國公園をスタート地点とし、長田区役所南側の御蔵北公園がゴール。コースは決めず、5人程度のグループに分かれて、1回目の時に用いたマップを参考にかつての激震地を巡回し、実行委のメンバーが案内役として同伴する。

メンバーの野崎隆一さん(65)は「一口に復興と言ってもそれぞれの場所や差がある。大きく変わったところ、全然変わらなところを改めて見てもらいたい。そして、今日に至るまで多くの人々の支えがあったことを感じてほしい」と話している。

問い合わせは神戸まちづくり研究所(078・230・8511)へ。